

K 209.4

481

4

羽溪記卷之第七

安侯敬城士高名無多別當成進出本

最上のと存成澤通忠五子修徳といふ率一に右館と
 相違せりといふ誤記として我ひけりといふ子の語云云處の
 やくち語をいふに感ずるなり、坊師と各々とて、軍に
 守りあはるゝ計あり義之公の忠告に預くと我も
 我もと斬るべきの態といふに思ひ合ふ事妙之とて
 一形勢は内國樟が城の塔に、福倉名物なりといふ